

(公財)高速道路調査会の代表者が評議員を務める REAAA の第 121 回評議員会が開催され、併せて開催された REAAA 技術委員会 (TC)・技術小委員会 (TSC) および第 25 回若手技術者・専門家会議の概要について出席者から報告します。

第 121 回 REAAA 評議員会出席報告

鈴木 徹*

はじめに

アジア・オーストラレーシア道路技術協会 (Road Engineering Association of Asia and Australasia : 以下「REAAA」という) の第 121 回評議員会が、2024 年 3 月 6 日マニラで開催された。

日本からは、黒田推薦評議員 (日本工営株)、鈴木評議員 (高速道路調査会代表評議員)、神谷舗装技術小委員会委員長 (中日本高速道路株) が現地で参加した。

評議員会の前に、第 25 回若手技術者・専門家 (Young Engineer & Professionals, 以下「YEP」という) 会議が開催され、日本からは山本氏 (東日本高速道路株)、北口氏 (中日本高速道路株)、前原氏 (西日本高速道路株)、儀賀氏 (阪神高速道路株) の 4 名が出席した。

今回の評議員会に関連した全体行事は表一 1 のとお

表一 1 第 121 回評議員会等の行事表

3/5(火)	夜	ウエルカムレセプション
3/6(水)	午前	第 25 回 REAAA YEP 会議
	午後	第 121 回 REAAA 評議員会
	午後	特別講演
3/7(木)	夜	フェアウエルパーティー
	午前	テクニカルツアー

* REAAA 評議員、日本高速道路インターナショナル株代表取締役社長

りである。

今回の出席報告では、評議員会等は鈴木が担当し、技術委員会 (以下「TC」という) は神谷氏が、YEP 会議については北口氏がそれぞれ担当する。

1. 第 121 回評議員会 (写真一 1)

会議は Dr. Sung-Hwan Kim REAAA 会長 (韓国) の挨拶による歓迎の辞によって始まり、前回インドネシアで開催された第 120 回評議員会の議事録確認、財務委員会報告、事務総長報告がなされた後、各委員会・作業委員会 (以下「WC」という) からの活動状況報告がなされる形で進行された。

(1)財務委員会報告

当報告では、2023 年度 (4 月～12 月) の収支説明があった。

当該年度の収支に関して、実際の総収入は 206,240 マレーシアリングギット (以下「RM」と示す) であり、計画額の約 58%であった。一方、今年度の実際の総支出は RM 237,747 であり、これは計画額の約 86%であった。その結果、今年度に関しては、税引き後 RM 31,722 の赤字であった。

この結果から、今後の取るべき行動が委員会から示された。すなわち、① REAAA の財政は不安定であ



写真一 1 REAAA 第 121 回評議員会 各国の評議員

り、評議員全員の援助が必要であること、②過去の未納会費に関して検討する必要があること、③評議員は、新規会員および広告の増進に努めることなどが要請された。

(2)各委員会・WC 活動報告

今回も各委員会・WC から活動状況の報告があった。このうち、2025 年秋に韓国で開催が予定されている第 17 回 REAAA 道路会議に向け、REAAA にある各「賞」の概要に関して紹介することで、報告に代えることとしたい。

1)片平賞 (C6WC1)

片平賞は、1983～1986 年まで REAAA 会長であった故 片平信貴 氏を追悼し、1991 年に設立された。目的は、道路関連工学における技術促進・高度化に若手技術者・専門家の積極的な関与を奨励するために、REAAA 道路会議で発表された優秀論文に対し授与されるものであり、故 片平氏からの寄付金による基金が活用されている。また、2023 年度に片平賞の表彰対象を従来の優秀な技術論文に加え、日常の TC 活動を作成される優秀なケーススタディー・レポート等の報告

書・論文を含め表彰することで変更が加えられた。

今後、遅くとも 2025 年 1 月には第 17 回 REAAA 道路会議の計画と同時に論文募集の広報がある予定である。

2)三野ベストプロジェクト賞 (C6WC2)

アジア太平洋地域において建設された道路または橋梁で、傑出したものと認められたプロジェクトを表彰するものである。1998～2000 年の間 REAAA 会長であった故 三野 定 氏からの寄付金による基金が活用されている。

今後、2024 年 6 月頃にプロジェクトの募集が開催される予定である。

3)Smart Highway 賞

Smart Highway 賞は、REAAA 関係者の Smart Highway Management System の開発と応用にける優れた功績と貢献を称え、これら開発における経験・ノウハウを共有し、道路工学の横断的統合と Smart 技術の応用を促進するために創設された。

応募に際しては、① ICT 技術の独創的または革新的な応用であること、②新しく開発された、あるいは

革新的な技術，ソリューション，サービス，ビジネスモデルあることや，③ CO₂削減の促進など要件を満たす必要がある。

案件募集に関しては，この号の発行時は締め切られている。

4) Hwang 賞

Hwang 賞は，REAAA 名誉会員である Mr. Hwang Gwang-ung の寄付金により設立された賞である。この賞の目的は，アジア太平洋地域における道路セクターと地域の発展に多大な貢献を果たした REAAA 会員を称えるものである。

応募に際しては，REAAA の目的である①アジア太平洋地域における道路工学と関連技術の実践を促進し，進歩させる，②道路および関連構造物の計画，設計，建設，維持管理の技術的責任を担う者間のコミュニケーションを奨励するなど，REAAA の活動目標を高いレベルで実践していることが求められる。

今後，韓国で開催予定の 2025 年 REAAA 道路会議の計画とともに，2024 年 5 月頃要項が公表される予定である。

これらの各賞に奮って応募いただければと思う。これら各賞の概要や REAAA の今後の予定など REAAA のウェブサイトをご活用いただければ幸いである。
(<https://www.reaaa.net/>)

2. 第 121 回以降の評議員会開催国の調整

次回第 122 回については，2024 年 9 月にバンコクで開催予定である。これは，同時期に開催予定の「第 5 回ハイウェイ技術に関する国際会議 2024（主催：タイ道路局，タイ道路協会）」との同時開催を目指すものである。今回の評議員会では，主に同国際会議の紹介がタイ当局よりあり，広く論文登録の要請があった（当国際会議の URL：<https://www.iche2024.com/>）。

さらに，2025 年 10 月開催予定の REAAA 第 17 回道路会議に関しても，韓国の準備機関より準備状況等の説明があった。

3. その他

今回の一連の REAAA 活動の他に，評議員会後の

特別講演として，比国 DPWH の PPP 担当 Under Secretary である Dr. Maria Catalina E. Cabral より，“Revolutionizing the Philippines Transport System through The Build Better More Program”と題して，今後の比国での交通インフラ整備計画について説明があった。

比国においては，前ドゥテルテ大統領時代に”Build Build Build”をスローガンに掲げ，交通インフラ整備に邁進してきた。現マルコス大統領も前政策を引き継ぎ，“Build Better More”の旗印のもと政策を進めている。

プレゼンテーションの中では，PPP 政策の説明に始まり，道路，港湾，空港の新プロジェクトの紹介があり，今後の比国の発展を印象付けるものであった。

4. テクニカルツアー（写真—2）

テクニカルツアーでは，参加者約 30 名が比国 DPWH の案内のもと New Clark City と Sacobia River Bridge（Clark International Airport から New Clark City へのアクセスロードの一部として整備）を視察した。これらは，マニラ首都圏の北西部，マニラ首都圏から車で約 2～3 時間のところに位置する。

New Clark City は，米軍基地の跡地に整備されており，その地理的条件から台風などの自然災害の影響を受けにくい場所で，マニラ首都圏一極集中解消のための新都市であり，この整備が完了すれば 100 万人を超える居住者をかかえ，60 万もの雇用機会を創出する都市になると期待されている。



写真—2 テクニカルツアー（Sacobia River Bridge にて）

REAAA 技術委員会(TC)・技術小委員会(TSC)報告

神 谷 恵 三*

本稿では、技術委員会（Technical Committee）の全般と各技術委員会（Technical Sub-Committee）の活動について神谷が報告する。

マニラ評議員会は対面形式でのみ実施された。このため、オンライン開催を希望していたオーストラリアから新任技術委員長 James Grenfell 氏とレジリエンス技術小委員長の Caroline Evance は欠席することが確定した。前回のラブアンバジョ会議に続く兩名の欠席に鑑みて、神谷が彼らの声明をお伝えすることとした。具体には評議員会の前週に事前にテレビ会議を開催し、兩名から確認した報告の要旨を神谷が当日の評議員会で述べることにした。

○技術委員会

ラブアンバジョ会議では Sharp 氏の技術委員長退任と共に、後任は ARRB から Dr James Grenfell が正式に決議された。しかしながら、新任委員長の所信表明がないまま今回の会議を迎えることになった。神谷は新任委員長の顔写真と共に、Sharp 氏の職責を積極的に進めて行く所存をお伝えした。そして、技術委員会はアジア諸国において技術知見の共有と発展を具現化できる REAAA の概念そのものであるという彼の意見を述べた。また、PIARC との連携は今後も促進していく旨を付け加えた。

その後、以下の質疑応答が持たれた。

REAAA ジャーナル：2021 年のフィリピン大会の片平受賞論文が、今もなおジャーナルとして公開されていないことに鑑みて、これらをニュースレター記事として公開する提案が示された。この他、後述する舗装技術小委員会では次回の技術レポートには舗装関連の論文を組み込むこととしている。

二輪車の交通事故に言及した各国アンケート調査を終えており、これのジャーナル発刊を目指している。迅速な実現化に向けて道路安全小委員会の活動支援が提案された。

舗装小委員会とレジリエンス小委員会については、各々の技術レポートがいつ発刊できるかという疑問が持たれた。明確には言えないものの、舗装のドラフト作成を年内中に終えたいと回答した。

統計データ：年間の道路死亡者数等の統計データのアップデートについては、評議会事務局が毎年の照査を行うことが前回の評議員会において提案された。しかし、具体的な運用方法については今回も議論するまでには至っていない。

50 周年記念誌：記念イベント後の発行にあたり、Sharp 氏が 10 月末までにドラフト作成を目指していた。しかし、各国が提供した歴史情報量に大きな差が見られることから、発刊を断念したいとの意向が示された。この背景には母国語で書かれた史実を英語に翻訳するという各国の労力が伴うことも判明した。収集した情報はニュースレターとして一部公開されることが望まれる。

○舗装小委員会

先ず、Dr James Grenfell 代行で触れた PIARC との連携に関する最新動向を述べた。写真—3 に示すとおり、10 月の PIARC プラハ大会期間中に両組織の合同会議が持たれた。少人数の REAAA に対して、PIARC 会長からこれまでの貢献に対する謝辞が述べられた。その後、次期ターム 2024～2027 においても双方の積極的なコラボレーションのご提案があった。舗装その他小委員会を統括する REAAA 技術委員会の他、幅広のスキームで今後は連携していくことが確認された。これについては最新のニュースレター 2023-2 で報告済みである。

* REAAA 舗装技術小委員会 (PTC) 委員長, 中日本高速道路 (株) 技術本部高度技術推進部専門主幹

表一 2 舗装維持修繕のケーススタディ論文一覧

ポットホール技術革新： #1 'Hot-in-place recycling patching technology in Taipei City', by Jia-Ruey Chang (Taiwan) #2 'A cold mix standard for pothole patching', by Hamzah Hashim (Malaysia). #3 'All-weather, highly-durable cold asphalt mix for pavement repair', by Akihito Hirota (Japan, 2021 年片平賞 2 位論文) #4 'Reformation of bridge slab maintenance: Development of specialized waterproofing materials for manual pavement work', by Gaku Suzuki (Japan)
リサイクル戦略： #5 'Use of Steel Slag Aggregates and Crumb Rubber in Asphalt Mixes', by Than Than Nyunt (Singapore) #6 'Study of the effects of repeated recycling for asphalt pavements in Japan', by Atsushi Kawakami (Japan) #7 'Excellence in pavement recycling and stabilization in local government', by Nick Ryan (Australia)
レジリエンス技術： #8 'Pavement Resilience of National Highway No.117: Nakornsawan - Nongtao, Thailand', by Auckpath Sawangsuriya (Thailand) #9 'Development of new test method applying pore water pressure for evaluating interlayer bonding properties of asphalt pavement' by Hiroki Takebayashi (Japan, 2021 年片平賞 1 位論文)



写真一 3 REAAA-PIARC 合同会議 (中央:PIARC 会長)

次に、舗装小委員会の活動については明確な進捗があったことを報告した。今期テーマは、道路舗装維持修繕に関する各国ケーススタディを収集した後、技術レポートとして発刊する予定である。前回の評議員会で述べたとおり、半数国が未提出という状態が依然として続いている。そこで、テーマ別に日本論文を補填することにより、レポートの質を高めることとした。その結果、表一 2 に示すとおり、ポットホールをはじめとする 3 テーマについて 9 編の論文を収編することができた。特筆すべきは、2021 年のマニラ大会で片平賞 1 位と 2 位を受賞した論文を採用したことである。これは先述の問題を解決すると共に、質の向上を図るものである。

さいごに、評議員会の前週にオンラインによる舗装委員会を開催したことを報告した。これの目的は技術知見の交流と共に、論文未提出国への啓発を図るものであった。表一 2 のうち、# 4 のポットホール案件と # 9 のレジリエンス案件の日本人執筆者にプレゼンをお願いした。前者は橋梁床版のモルタル補修材の開発、後者は層間の付着力評価試験の開発というものであった。各々熱心な質疑応答が得られたので、このような機会は今後も継続していきたいと述べた。

○道路安全小委員会

二輪車の交通事故に言及した各国アンケート調査に基づくドラフトレポートの作成は既に終了しており、その概要がニュースレター 2023-2 で紹介されている。小委員長 Ir. Dr. Muhammad Marizwan bin Abdul Manan から、最終の技術レポートの構成案とこれに至るまでの取組み状況が報告された。言うまでもないが、本小委員会は成果の見える化が最も進んでいるといえる。

○レジリエンス小委員会

委員長 Caroline Evance に代り、神谷が本省委員会の進捗報告を行った。本委小委員会の目的は、気候変動とその対応に関するメンバー国の懸念に応えると共に、PIARC TC 1.4 (Climate Change and Resilience of Road Network), ならびに PIARC TC 1.5 (Disaster Management) との協働を図るものである。両者を招き入れたジョグジャカルタにおける国際セミナーの後、各国アンケート調査が実施されている。しかし、これに回答したのは僅か 4 カ国のみであった。日本を含めるその他メンバー国からは未回答の状態が続いている。日本からの回答については神谷がその調整を担うことを述べたが、年始の能登半島地震により対応にはまだ時間を要することを説明した。その上で、未回答国の積極的なご対応を改めてお願いした。

次に、小委員長からの重要な報告事項をお伝えした。それは次回のバンコク評議員会の際、PIARC との国際セミナーを計画しているということである。これは PIARC とのコラボレーションという観点からも意義深いものである。これの実現性に向けたご協力をお願いした。

REAAA 第 25 回若手技術者・専門家会議出席報告

北 口 修*

はじめに

REAAA 第 121 回評議員会の開催に先立ち、第 25 回若手専門家（Young Engineers and Professionals：以下「YEP」という）会議が、フィリピンの YEP を幹事として 2024 年 3 月 6 日にフィリピンのマニラ市で開催された。YEP 会議は各国の若手の道路専門家の交流を目的として開催され、2012 年 4 月の第 1 回会議以降、評議員会と合わせて年 2 回程度開催されている。ここ数年は現地での集合会議とウェブ会議を併用して開催されていたが、今回は現地での集合会議のみでの開催であった。

○第 25 回若手専門家（YEP）会議の概要

本会議には、インドネシア、フィリピン、マレーシア、台湾、日本、韓国、シンガポールから約 10 名が現地での会議に参加し、日本からは、各高速道路会社から選出されている 6 名の YEP のうち 4 名が参加した（表-3）。

表-3 各社の YEP

所属	氏名	現地参加
東日本高速道路株	山本亜沙実	○
中日本高速道路株	北口 修	○
西日本高速道路株	前原 慎也	○
首都高速道路株	大村 陽	
阪神高速道路株	儀賀 大己	○
本州四国連絡高速道路株	小林 弘昌	

YEP 会議では、各国からの活動報告（アップデート）が行われた。日本からは現地参加の YEP から大規模な落石対策に関する事、高速道路新設区間の橋梁建設工事に関する事、橋梁の大規模更新工事に関する内容を報告した。他国からは道路関係の会議や学会への参加、2024 年の YEP の活動計画、2025 年に開催予定の REAAA 評議会や YEP 会議に向けた準備計画、自国の橋梁建設工事の現場視察など、さまざまな内容の報告がなされた。各国の YEP がどのような活動を行っているのか知ることができ、日本の YEP の今後

の活動を考えていくうえで非常に参考になった。

テクニカルプレゼンテーションではインドネシアの公共事業・国民住宅省およびフィリピンの公共事業道路省の職員から AI を活用した路面性状の診断技術や道路開発プロジェクトに関係する各ステークホルダーの視点を Q 方法論（Q methodology）によりどのように理解するかということについて発表がなされた。会議の最後には、参加者で記念撮影をして終了した（写真-4）。



写真-4 YEP 会議参加者で記念撮影

参加所感

私自身現地で YEP 会議に参加するのは 2022 年のニュージーランドのクライストチャーチでの参加以来今回で 2 回目であった。本会議において日本の YEP からは各社で取り組んでいる大規模更新事業等の紹介を行った。今回の YEP 会議での他国の活動報告を受けて今後は定期的に日本国内での YEP 間の交流も積極的に行い、活動の成果を社内へ還元したいと感じた。2024 年 9 月に同会議がタイのバンコクで開催される予定であるが、その機会に日本の YEP 活動の報告を行えるよう国内でも活動を行っていきたい。早速 2024 年 4 月に第 1 回目の国内の YEP 活動を行った。

また、今回の会議全体のプログラムを通して開催国であるフィリピンのホスピタリティの高さに驚いた。今後 REAAA 評議会および YEP 会議が日本でも開催されることが想定されるが、その際は有意義な会議となるよう YEP として開催に向けた準備等に積極的に関わっていきたい。

* 中日本高速道路株技術本部海外・技術事業部